

# 幻視する風景

## 藤田志朗の世界



「月になる花」2015年 個人蔵

### 【展覧会概要】(資料2～3ページ参照)

つくば市在住の藤田志朗（1951- ）は創画会の中心作家として活躍する一方、1985年から30年以上にわたって筑波大学で後進の育成にも務めてきた日本画家です。1997年以降はうしく現代美術展等へ出品し、また茨城県美術展覧会の運営にも尽力するなど、県内の美術振興にも貢献してきました。

日本画家であった両親のもと京都に生まれた藤田は、1980年に東京藝術大学大学院を修了し、その翌年には第8回創画展で初入選を果たします。それ以降、藤田は創画展を舞台に発表を重ね、打ち捨てられた機械、荒涼とした海景を中心とする心象風景による作風を確立します。2000年代に入ると、藤田の作風はより洗練された月夜の海景シリーズへと展開します。さらに2011年3月の未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生を契機に作風が変化し、画面には大きく描かれた月とそれに呼応する無数の花が表されるようになります。

本展は、初期作品から近作まで大作を中心に紹介し、40年を超える藤田の創作の軌跡をたどります。圧巻のスケールで構成される作家最大規模の回顧展を是非ご堪能ください。

#### 《問い合わせ先》

茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083

TEL:0293-46-5311 FAX:0293-46-5711 E-mail:kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当:永宮 勤士(ながみや きんじ) / 広報担当:大津 友美(おおつ ゆみ)

※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介いたします。

(<https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>)

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
標記の件につきまして、本書のとおりご案内申し上げます。

## 【開催概要】

- 1 **展覧会名** 企画展「幻視する風景—藤田志朗の世界」
- 2 **会 期** 令和6年(2024)12月14日(土)～令和7年(2025)2月11日(火・祝)  
休館日：毎週月曜日、12月29日(日)～1月1日(水)  
(ただし、1月13日(月・祝)は開館。1月14日(火)は休館)
- 3 **会 場** 茨城県天心記念五浦美術館 展示室B・C
- 4 **主 催** 茨城県天心記念五浦美術館
- 5 **後 援** 茨城新聞社／北茨城市／北茨城市教育委員会／つくば市／つくば市教育委員会／筑波大学
- 6 **入 場 料** 一般360(290)円/満70歳以上180(140)円/高校生240(170)円/小中生170(110)円  
※( )内は、20名以上の団体料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は  
指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方および付添いの方1名は無料  
※12月21日(土)は満70歳以上の方無料  
※12月28日、1月4日を除く土曜日は高校生以下無料

## 7 内覧会(関係者・報道機関対象)

日時：12月13日[金] 午後3時～(受付は午後2時30分～)

場所：茨城県天心記念五浦美術館 展示室B・C入口

- 8 **出品数** 日本画 約30点

## 9 主な出品作品 ※制作年順

「鳥寄せ」1988年 個人蔵

「鳥夢—海」1995年 茨城県立取手松陽高等学校蔵

「夕影夢」2007年 個人蔵

「時漂」2008年 個人蔵

「月になる花」2015年 個人蔵

「月へ」2016年 個人蔵

「行く道」2020年 個人蔵

## 10 作家略歴

- 1951年 京都市生まれ
- 1980年 東京藝術大学大学院修了
- 1981年 第8回創画展で初入選(1984年、1988年、2006年創画会賞、会員推挙)
- 1985年 筑波大学講師(1994年助教授、2002年教授、2017年名誉教授)
- 1986年 第11回現代美術選抜展(文化庁主催)出品
- 1992年 第4回川端龍子賞展で優秀賞
- 2001年 第2回現代茨城作家美術展(茨城県近代美術館)出品(以後毎回出品)
- 2017年 筑波大学日本画研究室展—藤田志朗と学んだ88名の歩み—(つくば美術館)開催
- 現 在 創画会正会員・常務理事、茨城県美術展覧会副会長、筑波大学名誉教授、つくば市在住

## 11 本展のみどころ

- (1) 本展では日本画の代表的な公募展・創画展に発表してきた大作を中心に、初期の代表作から、充実期の《時漂》2008年、新展開を見せる《月になる花》2015年、近作まで約30点の作品によって創作の軌跡をたどる過去最大規模の回顧展となります。
- (2) 藤田の初期の作品は、対象のクローズアップや極端な遠近法を用い、人工物をリアルに捉えた描写と重厚な質感表現が重なり合い、独自の幻想世界へと鑑賞者を誘います。また、近年繰り返し描いている華やかな月と花が織りなす一連の作品は、浄土を思わせる仏画のような荘厳さをたたえ、新たな境地を見せてくれます。変化する作風の中でも一貫して表されてきた独特の心象風景をお楽しみください。
- (3) 戦後、茨城県内唯一の日本画の専門教育機関として発足した筑波大学の日本画コースからは、1987年から今日に至るまで、多くの日本画家や専門家が輩出されています。藤田は1985年より筑波大学で後進の育成に努めてきました。本展では、2016年に筑波大学で藤田が行った湯島聖堂孔子像復元プロジェクトの一環として制作した作品も展示し、32年に及ぶ藤田の日本画教育の一端もご紹介します。
- (4) 会期中、クロストークを2度にわたり開催します。出品作家・藤田志朗と当館館長や担当学芸員との対談により展示室をめぐるります。作家の作品にかける思いや、制作の舞台裏などを聞くことができる貴重な機会です。

## 12 広報文

- (1) つくば市在住の日本画家・藤田志朗(1951-)は創画展の中心作家として活躍する一方、筑波大学で後進の育成にも務めるほか、茨城県美術展覧会の運営にも尽力するなど、県内の美術振興にも貢献をしてきました。1981年の創画展への初入選以降、藤田は同展を舞台に発表を重ね、対象のクローズアップや極端な遠近法で描かれた独自の心象風景による表現を確立します。また、2011年3月、東日本大震災の発生を契機に作品が変化し、画面には大きく描かれた月とその存在に呼応する無数の花の集積が表されるようになります。本展では、初期作品から近作まで代表作を中心に紹介し、40年を超える藤田の画業を振り返ります。(291字)
- (2) つくば市在住の画家・藤田志朗(1951-)は創画会で意欲的に発表を重ねる一方で、筑波大学での教育や県芸術祭美術展覧会の運営など、本県日本画の発展にも寄与してきました。本展では創画展に発表した大作を中心に、初期の代表作から近作まで40年を超える画業を紹介し、藤田が描き続けてきた幻想的心象風景の世界をご覧ください。(158字)
- (3) つくば市在住の画家・藤田志朗(1951-)は創画会で意欲的に発表を重ねる一方で、筑波大学での教育や県芸術祭美術展覧会の運営など、本県日本画の発展にも寄与してきました。本展では、初期作品から近作まで40年を超える画業を紹介します。(114字)

## 13 会期中のイベント

### (1) クロストーク

第1回＝藤田志朗×小泉晋弥(当館館長)

日時：12月14日[土] 午後1時10分～

第2回＝藤田志朗×永宮勤士(本展担当学芸員)

日時：1月19日[日] 午後1時10分～

会場：展示室B・C ※要企画展当日入場券、申込不要

### (2) 大笑い!五浦寄席

出演：二松亭ちゃん平(社会人落語家)、相模亭とげ蔵(社会人落語家)

日時：12月22日[日] 午前11時～、午後2時～

会場：講堂

定員：各回114名 ※要企画展入場券、当日先着順

### (3) 映画会(五浦名画座)

12月15日[日] 「トムとトーマス」(2002年/110分/カラー/イギリス)

1月12日[日] 「トキワ荘の青春」(1995年/110分/カラー/日本)

2月9日[日] 「市民ケーン」(1941年/119分/モノクロ/アメリカ)

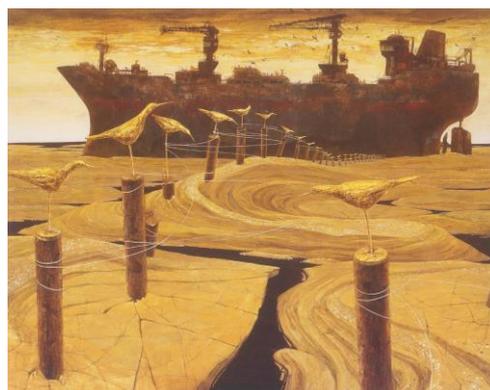
会場：講堂 午前の部9時45分～、午後の部1時30分～(15分前開場)

各回114名 ※無料、当日受付先着順、全席自由

【広報用図版】 ※表紙の画像も提供可能です。



「鳥寄せ」1988年 個人蔵



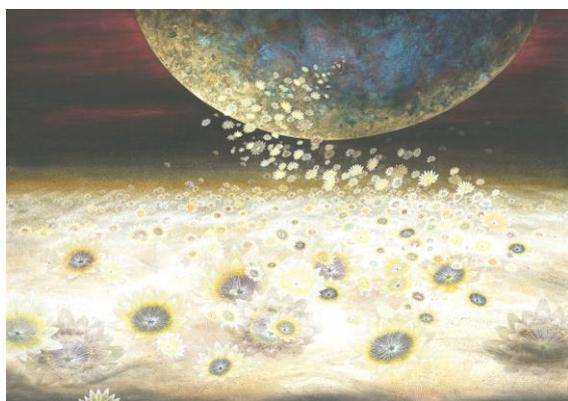
「鳥夢—海」1995年 茨城県立取手松陽高等学校蔵



「夕影夢」2007年 個人蔵



「時漂」2008年 個人蔵



「月へ」2016年 個人蔵



「行く道」2020年 個人蔵

※図版使用に際しての注意

- ・展覧会の紹介を目的とする内容にのみご使用願います。
  - ・図版への文字乗せ、トリミング等の一切の加工はご遠慮ください。
  - ・図版使用の際は必ずキャプションを明記してください。
  - ・図版はデータでの提供となります。
- 広報担当まで連絡、または右QRコードを読み込んでリクエストしてください。



【問い合わせ先】 茨城県天心記念五浦美術館 〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿 2083



TEL : 0293-46-5311 FAX : 0293-46-5711 E-mail : [kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp](mailto:kouho-tmi@tenshin.museum.ibk.ed.jp)

展覧会担当 : 永宮 勤士 / 広報担当 : 大津 友美

※本リリースの記載内容は、当館ホームページで随時紹介して参ります。

当館HPへ